

アピール

辺野古への新基地建設を止め、沖縄の未来を拓くことを目的に設立した辺野古基金は、2015年4月発足から3年が経過しました。

この間、辺野古基金へ寄せられた善意の「寄付」総額は5月31日現在で6億5千9百万円余（約11万4千件余）となり、各団体への支援額も5億6百万円余となっております。

3年を経過した今なお全国各地から多くの善意と沖縄に対する強い思いが寄せられ、キャンプ・シュワブゲート前で非暴力の抗議を続ける島ぐるみ会議や県民に大きな勇気と力を与えています。

また「辺野古に新基地は造らせない」との運動は全国的な広がりを見せています。

5月26日開催された「美ら海壊すな 土砂で埋めるな 5・26 国会包囲行動」には1万人が結集し、全国各地で運動を強化していくことを確認しました。

一方、政府・沖縄防衛局は連日大量の砕石を運び込み、違法な護岸工事を続けています。

しかし、辺野古新基地建設予定地に、深さ40mにわたって液状化した軟弱地盤が続いていることや活断層の可能性が指摘されている箇所があることが、沖縄防衛局が開示した報告書で明らかとなりました。

また、国立沖縄工業高等専門学校や久辺小学校・久辺中学校など、新基地建設に伴って設定される高さ制限を超過する建造物が多数存在することが判明しました。

政府が沖縄電力の送電鉄塔などを移設が必要としながら、その他の恒久的な建物を適用除外として基地建設を強行していることに、住民の命・安全を軽視する「二重基準」との強い批判があがっています。

こうした事実が次々と明らかになるなか、新基地建設は不可能であり、ただちに中止すべきです。

辺野古新基地建設問題が重大な局面を迎えている今、辺野古基金の役割はいっそう重要となっています。辺野古基金は、辺野古への新基地建設を止めるため、引き続き活動を継続していくことを決意し、改めて全国の皆様のご協力・ご支援を心からお願いするものです。

2018年6月7日
第5回辺野古基金評議員会